



平成 29 年度第 1 回企画展

古文書に見る人々の暮らし2

寺社参詣

宮代町郷土資料館



ごあいさつ

日本には八百万の神々がいるといわれています。その神々は仏教と深くむすびつき、人々の 生活のさまざまな場面で大きな影響を与える存在となりました。人々は自然の中に神仏の存在 を感じ、その存在に畏敬の念を持ち、さまざまな願いを込めてそれらを祀りました。

江戸時代、一般の人々は社会制度上、生まれ育った土地を遠く離れることはできませんでしたが、 寺社参詣と湯治だけは例外として認められました。また、戦乱がなくなったことで社会が安定し、 街道や宿場などが整備され、人々の生活水準が向上したことなどもあって、寺社参詣の旅にで かけることは夢ではなくなりました。

町域に残された多くの古文書をひも解いていくと、人々の信仰に関する古文書も多くあることがわかります。日常の生活に深いかかわりのある地元の寺社の維持管理に関するものや、豊作祈願・雨降り・雷や嵐除け、病疫退散など一年間を過ごす上で欠かすことのできない神仏への信仰に関するもの、あるいは遠方の有名な寺社などへの参詣に関するものなどさまざまです。

今回の企画展は「古文書に見る人々の暮らし2 寺社参詣」と題し、郷土資料館に収蔵している古文書の中から、寺社に関する史料を紹介します。江戸時代から大正時代にかけての史料が中心となりますが、町域の人々が守り伝えた地元の寺社や、少し遠方ながらも願いを込めて訪ねた寺社など、寺社参詣の一端をご覧いただければと存じます。また、これらの展示史料から昔の人々が信仰した寺社に注目していただき、あるいは実際に訪ねていただくなどして、願いや思いなどを共有していただく機会となれば幸甚です。

結びに、貴重な史料をご提供くださり、あるいはご指導、ご協力をいただきました関係各位に心より御礼申し上げますとともに、ご来館いただきました皆様には郷土資料館の活動にご理解、ご鞭撻、ご協力をお願い申し上げ、開催にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

平成 29 年 5 月 宮代町郷土資料館

~ 凡例 ~

- 1. 本書は、平成29年5月13日(土)から7月9日(日)まで開催される、宮代町郷土資料館平成29年度第1回企画展「古文書に見る人々の暮らし2 寺社参詣」の展示図録です。
- 2. 展示開催期間中の休館日は次の通りです。 5月15・22・29日、6月5・12・19・26日、7月3日
- 3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆執筆、写真撮影、デザイン、編集は、当館学芸員 横内美穂が担当しました。また、一部の資料解説については、当館学芸員 河井伸一の協力によりました。
- 4. 図録の校正は、展示構成とは異なります。また、掲載した写真の大きさは任意のものです。
- 5. 資料提供・協力者一覧(順不同・敬称略) 伊草侃斗・岩崎俊男・岩崎文庫・折原静佑・渡辺惣一郎・渡辺文雄・青木秀雄

地域の寺社を守る

江戸時代の人々は、家単位に1つの寺院の檀家となり、その寺院に墓をつくるようにされました。寺院は檀家から檀那寺と呼ばれ、先祖代々の墓を管理し葬式や法事などを行う役割のほかに、檀家の戸籍である「宗門人別改帳」を管理することで、その檀家がキリシタンや禁制宗派の信徒でないことを証明する役割がありました。人々は住居の移転や奉公にでたり、あるいは結婚したり参詣のための旅にでたりするときには、檀那寺から発行される寺請証文を必要としました。そのため檀家と檀那寺とのかかわりは深いものがありました。

また、地域を守る神としての神社も大切な存在でした。生まれたところの神である産土神や、その土地に縁のある地主神、家の神である氏神などは鎮守様として大切に祀られ、人が生まれてから亡くなるまでに行われる人生儀礼や春夏秋冬を過ごす中において、祈願やあるいは感謝の意をあらわすために参詣する場所となりました。

日本では仏教伝来の過程において日本古来と神々と仏教の仏たちが結びつき、神々は仏が衆生を救うためにその姿を借りたものであるとされたことから、仏と神は人々の生活に深くかかわり、そのよりどころとなる寺院や神社を大切に守ってきたのです。

このコーナーでは、町域の寺社に関係する古文書を紹介します。



1. 鎮守姫宮社拝殿再興寄進帳 折原家文書 文久 2 年 (1862)7 月

姫宮神社の拝殿を再興するための寄進帳です。「本村組」とあるので、百間本村分であることがわかります。寄進した人の寄進日と金額が記されています。



2. 姫宮神社修繕寄附願

折原家文書 大正 14 年 (1925)12 月

大正 12 年 9 月 1 日、関東大震災が起こり多くの被害が発生し、姫宮神社も大きな被害をうけました。修繕のための寄付は集まりつつありましたが、設計の見直しなどから多くの費用がかかることとなり、震災から約 2 年後の大正 14 年 12 月に改めて寄付を募り始め、修繕に向けた一歩を踏み出しました。

3. 姫宮社修繕寄附芳名帳



関東大震災で被災した姫宮神社の修繕にあたり、宿地区の氏子に向けて寄附を募った際の名簿です。中には修繕費寄附の依頼文と、修繕費の見積り、そして寄附をした人々の金額と名前が記されてい

折原家文書 額と名前が記されてい 大正 14年 (1925)12月 ^{ます。}

4. 若宮八幡宮修繕につき仕様帳



折原家文書 明治 25 年 (1892)

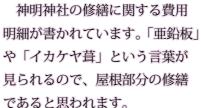
若宮八幡宮修繕のために、大工の関根氏から出された書類で、修繕計画と契約書をあわせたような内容になっています。



5. 神明社修繕費 (明細覚) 折原家文書 大正 12 年 (1923)

7. 春作庵交割簿

西粂原村文書 明治 30 年 (1897) 4 月 11 日



西条原の明智寺を建立するために募った寄附に対して、金額と寄附をした人の名が記されています。(明智寺は、建物自体は現存しませんが、今も墓地が残っています。) 表紙に「西原村」とあるのは西条原村のことを示しています。現在でも、使われている呼称です。



6. 寺建立勧化覚帳 西粂原村文書 明和 2 年 (1765) 10 月



「交割」とはお寺の住職や管理者が交代するときに、寺の什物を引き継ぐことを意味します。よって、「交割簿」とはお寺の備品台帳という意味合いになるでしょう。仏像が本尊の千手観音像のほかに阿弥陀如来像と薬師如来像があったことがわかります

8. 鷲宮御本社瓦附り拝殿修復勧化諸懸覚帳 西粂原村文書 寛政 10 年 (1798) 8 月

行基芸薩漢母法去於

動化とは、お寺などで寄附を募ることを意味します。ここでは「勧化諸懸」とあるので、寄附金を募ったときにかかった諸費用の明細という意味合いになります。久米原村とあることから、西粂原鷲宮神社について本殿の瓦と拝殿の修復のために寄附を募った時の文書と推察できます。

9. 行基菩薩護麻供諸費控帳

伊草家文書

明治 31 年 (1898) 4月 23日

行基菩薩とあることから、西光院での護摩供養に関する諸費用がかかれた帳面です。行基菩薩とは奈良時代の僧の行基のことで、西光院はこの行基が草創であると伝わっています。



幸せを祈願して

日本には八百万の神々がいるとされ、水、風、雨、雷など森羅万象それぞれに神々がいるために、何かを祈願したい場合にはその内容に関係する神におこなうものとなります。例えば稲作において水が欲しい時期に雨が降るように、あるいは日光が欲しい時期に風雨や嵐が来ないように、虫がつかないように、無事に収穫できるようになどと願いますが、雨を降らせたり風雨や嵐を除けたりなどを得意とする神々がそれぞれいるために、祈願をする場合もそれぞれに祈願することとなります。そしてそういった神々を祀る神社が地元にあるとは限らないため、人々は多少遠方でも足を運び、御利益を求めて参詣したのです。

御利益を求めるということは、神社に限ったことではありません。神社が神々という人智を超えた存在を祀る場所であるのに対し、寺院は仏教という教えを広める場所といえます。 そして祀られている仏像や寺院開基の由緒などには同じく人智を超えた事象が伝わっていることが多く、また、仏にも多くの仏がいてそれぞれが持つ役割が違うとされていることも、人々が御利益を求めて参詣する理由となったのです。

町域に残された古文書の中には、やや遠方の寺社への参詣を示すものも多く残っていますが、ここでは身近な名刹である慈恩寺と、講という集団を組織して信仰された神社のなかから農耕に関係した板倉雷電神社と大山阿夫利神社について紹介します。

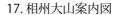
文政 12 年 (1829)7月3日、岩槻にある慈恩寺の本堂をはじめとする諸堂舎が火 災により焼失しました。この勧化帳は、同じ年の内に作成されています。現在ある 本堂は天保14年 (1843) に建てられたものとのことなので、もしかするとこの勧化 帳をもとに集められた寄付により建てられたもののひとつかもしれません。



10. 華林山慈恩寺 本堂再建勧化帳 岩崎家文書 文政 12 年 (1829)

12. 雷電宮本社棟上祭につき案内状 折原家文書 (天保6年)卯年(1836)正月

群馬県板倉町にある雷電神社です。関東に点在する雷電神社(雷電社)の総本社格といえる存在です。関東三雷神のうちの1社で、雷や氷嵐除け、豊作祈願、電気関係の仕事をする方の安全の神として信仰されています。この古文書は本社棟上祭の案内状で、未年と書かれています。現存する本社本殿は天保6年(1835)に造営されましたが、天保6年が未年であることから、この古文書も天保6年のものであると推察されます。



折原家文書 大正 5 年 (1916) 7 月 9 日

大正5年、大山では参道のうち子易木戸(現・子易明神前)から新町・「三の鳥居」までの石段を取り除き、車道としましたが、この案内図ではまだ石段となっています。また、下部にある三の鳥居の右側には、明治22年の市町村制施行で誕生した大山町の役場も描かれています。





御利益を求めて霊場を巡る

寺請制度などの社会制度上、住んでいる場所から自由に離れることができなかった江戸時代の人々も、寺社参詣と湯治の旅だけは許されていました。そのため、農閑期には寺社参詣を理由にして旅にでる人もいて、古文書の中にはそういった旅に関係するものも残されています。

神仏の霊験あらたかな場所を巡ることを霊場巡りといい、寺院や神社、ゆかりの地などで神聖視される場所を巡るものですが、弘法大師、観音菩薩、阿弥陀如来、薬師如来、七福神、八幡宮などそのテーマはさまざまです。特に、弘法大師空海ゆかりの地とされる「西国八十八カ所」は出身地である讃岐を含む四国にありますが、遠方であることからそれを模した霊場が各地につくられ、多くの参詣者が訪れています。また、日光東照宮や輪王寺といった日光山を構成する寺社への参詣は、人々に拝殿や本殿、塔など日光山を構成するさまざまな建物の絢爛豪華な様を人々に見せることで、徳川幕府の威信を示す意味合いもあったことでしょう。

こうした霊場巡りに関係する書籍もつくられ、需要も多かったようです。霊場巡りに必要とされる装束や順路、霊場間の距離、御詠歌といった基礎知識がまとめられています。また、霊場の範囲を鳥瞰図として描いた図面も多く残されています。これらは土産物として持ち帰った時に、まだ見ぬ霊場を思い描いたり、参詣した時の様子を思い出したり、あるいはこれから参詣するときの予習に使用したりと、さまざまな場面で利用されたものでしょう。

実際に参詣してみて、これらの図面と比較してみるのも一興ですね。



18. 坂東榛名山めうき山秩父道中覚 西粂原村文書 天明 6 年 (1786) 3 月

天明6年に西粂原の嘉七さんが訪ねた霊場の記録です。表紙の記述から出発したのが天明6年3月20日ころであったと推察できま

すが、中には日付などが書かれていないので所用日数はわからず、訪れた場所と距離などが書かれているばかりです。ただ、表紙の下部に「寛政六年寅三月七日」の日付と共に同行の人数や所用日数が記されているところはとても興味深いポイントです。

23. 日光山諸所案内手引草 全 渡辺家文書 天保 11 年 (1840) 2 月

日光山参詣のためのガイドブックです。寛政2年に出版され、文政5年、天保11年と何度も発行されている様子から人気があったことが伺えます。序文に「巨細なる事は日光名跡誌といふ書につまびらかなれば爰に略し唯参詣の順路のみをあらあらしるす」とあることから、種本となるもっと詳しい本が出版されていた様子がうかがえます。



惣七さんの旅日記「文久2年 鹿嶋道中日記手控帳」 文久2年2月20日、須賀村の惣七さんは鹿嶋神宮 参詣を目的とした旅にでます。江戸川を市川のあたり まで舟で下り、船橋、臼井、佐倉を通って神崎まで出 ると利根川沿いに移動し、鹿嶋神宮を目指します。途 中、有名な寺院・神社に参詣しながら鹿嶋神宮参詣を 終えた惣七さんは同じ道を戻らず、やはり各所で参詣 をしながら房総を一周する形で帰路につきます。基本 的には徒歩であることを考えると、鹿嶋から帰路につ くのに房総一周という遠回りとも思えるルートを通っ たことに驚く方も多いのではないでしょうか。旅を満 喫した様子がうかがえます。

日記の記述から、鹿嶋までの道中や木更津から帰宅 までの道では惣七さんは舟を多く利用している様子が うかがえますが、車や鉄道がなかった時代のこと、そ の移動には何日も要しています。今日では鉄道が発達 し道路状況もよくなっているため、この旅で惣七さん が訪れた場所は、宮代町あたりからは日帰りで行ける 距離となっています。

平成 27 年度の特別展「道中日記~江戸時代の旅~」 では、町域に残る道中日記をご紹介しました。行先は さまざまですが、いずれも主目的の参詣場所に向かう 前後には、ルート上の多くの場所を訪れていることが わかります。

昨今、寺社参詣を趣味にされている方も多く、最近 では「御朱印ガール」といった言葉も聞かれるよう になるほど、寺社参拝の証として御朱印をいただく方 も増えているようです。ここにご紹介した寺院・神社 などを実際に参詣され、惣七さんの見た景色をご覧に なってみるのはいかがでしょうか。



現在の鹿島神宮 拝殿

津の宮(香取神宮一の鳥居)

28. 鹿嶋道中日記手控帳



渡辺家文書 文久 2 年 (1852) 2 月 20 日



須賀村惣七さんの旅日記

「文久2年 鹿嶋道中日記手控帳」より旅程一覧

「文人と中 庇嗚迫中口記于征帳」より派性一見				
年月日	現在の市町村名	主な内容		
2月20日		須賀村を出発		
21 日	市川市	法漸寺参詣(現在の葛飾八幡宮)		
	船橋市	大神宮 参詣(船橋大神宮=意富比神社)		
	佐倉市	臼井宿に宿泊		
22 日	佐倉市 佐倉市	雨天のため逗留		
23 🖯	佐島 中 	出発		
		佐倉御城下通行		
		宗吾明神 参詣(現在の宗吾霊堂)		
	成田市	成田山 参詣		
		坂東二十八番札所 滑河山浄福寺 参詣		
	神崎町	源太河岸 (宿泊)		
24 日	神崎町	源太河岸から幸田渡へ舟で出発		
	稲敷市	幸田渡から阿波へ		
		阿波明神 参詣(阿波明神=大杉神社)		
		阿波から幸田へ戻る		
		幸田渡から神崎(源太河岸?)へ		
	神崎町	神崎明神 参詣(現在の神崎神社)		
		なんじゃもんじゃの名木		
		神崎(源太河岸?)から押砂へ		
	稲敷市	押砂から潮来へ		
	潮来市	潮来に宿泊		
25 日	潮来市	潮来から津ノ宮へ舟で出発		
	香取市	津ノ宮から香取大神宮へ		
		(津ノ宮は香取神宮の一の鳥居)		
		香取大神宮 参詣		
		香取大神宮から津ノ宮へ戻る		
		津ノ宮から舟で鹿嶋(大船津)にむかう		
	鹿嶋市	大船津に宿泊		
26 日	鹿嶋市	出発		
		鹿嶋大神宮 参詣		
		鹿嶋の御師宅に宿泊		
27 日	鹿嶋市	(御師宅から出発)		
		大船津に戻り舟で息栖へ		
	神栖市	息栖大神宮 参詣(現在の息栖神社)		
		息栖から舟で銚子へ		
	銚子市	銚子今宮から古岸高安へ泊		
(以下略)				
	·			

展示資料リスト

	史料群名	古文書番号	年代	表題
1	折原家文書	1377	文久 2 年 (1852) 7 月	鎮守姫宮社拝殿再興寄進帳
2	折原家文書	1546	大正 14 年 (1925) 12 月	姫宮神社修繕寄附願
3	折原家文書	1546	大正 14 年 (1925) 12 月	姫宮社修繕寄附芳名簿
4	折原家文書	871	明治 25 年 (1892)	(若宮八幡宮修繕につき仕様帳)
5	折原家文書	1561	大正 12 年 (1923)	神明社修繕費(明細覚)
6	西粂原村文書	76	明和 2 年 (1765) 10 月	寺建立勧化覚帳
7	西粂原村文書	52	明治 30 年 (1897) 4 月 11 日	春作庵交割簿
8	西粂原村文書	8	寛政 10年 (1798) 8月	鷲宮御本社瓦附り拝殿修復勧化諸懸覚帳
9	伊草家文書	1261	明治 31 年 (1898)	行基菩薩護麻供諸費控帳
1 0	岩崎家文書	6	文政 12 年 (1829)	華林山 慈恩寺 本堂再建勧化帳
1 1	岩崎家文書	3626	大正 4 年 (1915)	千手観音利生記
1 2	渡辺家文書	1226	(天保6年) (1836) 正月	雷電宮本社棟上祭につき案内状
1 3	岩崎家文書	165	江戸時代	万人講太々神楽勧メ帳 板倉村
1 4	岩崎家文書	120	(安政2年) (1855)2月	勧化帳
1 5	渡辺家文書	1047	明治 11 年 (1878) 4 月	阿夫利神社本社拝殿再建図
1 6	折原家文書	4165	明治時代	絵はがき(相州大山阿夫利神社拝殿)
1 7	折原家文書	1853	大正5年(1916)7月9日	相州大山案内図
1 8	西粂原村文書	62	天明 6 年 (1786) 3 月	坂東榛名山めうき山秩父道中付覚
1 9	西粂原村文書	78	寛政6年(1794)3月7日	坂東榛名山めうき山秩父道中付覚帳
2 0	伊草家文書	1980	昭和 59 年 (1984) 12 月	新四国弘法大師埼東八十八箇所霊場
				巡拝のしおり
2 1	折原家文書	2061	明治時代	幸手領六阿弥陀御詠歌
2 2	折原家文書	2370-11	大正時代	順路手引
	J/////300CE	201011) (III. 19) (III. 19)	
0.0	海川中子事	1000	ブル 11 左 (1040) 2 日	「北葛飾南埼玉弐郡大師霊場武州二十一ヶ所」
2 3	渡辺家文書	1026	天保 11 年 (1840) 2月	日光山諸所案内手引草 全
2 4	渡辺家文書	1040	明治 10 年 (1877) 7 月 19 日	日光諸社案内記
2 5	渡辺家文書	1457	江戸時代 明治 20 年 (1806) 4 月	日光御山之絵図
2 7	折原家文書 渡辺家文書	1874	明治 29 年 (1896) 4 月 江戸時代	日光両社名所全図 巡礼道知るべ
2.8	渡辺家文書	1464 848	江戸時代 文久 2 年 (1852) 2 月 20 日	<u> 逸化</u> 垣知るへ 鹿嶋道中日記手控帳
2 9	ガ原家文書 ・ 折原家文書	3854		
	折原家文書	3854 4687	八正 10 年 (1921) 10 月 3 日 明治時代	宗吾霊像(下総国公津村鳴鐘山東勝寺宗吾霊堂) 絵はがき(成田山新勝寺)
3 0	折原家文書	2771		成田山和勝守/ 成田山和勝守/ 成田山全図
3 1	川原豕又青	2111	明石 44 牛 (1009) 4 月 43 日	



宮代町郷土資料館